

福島県の人口構造・人口動向の特性を踏まえ、出生や移動の変動による将来人口への影響度を分析するとともに、県民の意見やニーズを踏まえた政策を検討するにあたり、(1)結婚・出産・子育て、(2)進路、(3)定住・二地域居住、の3つについての県民アンケート調査を実施した。

アンケート調査の概要については以下のとおりである。

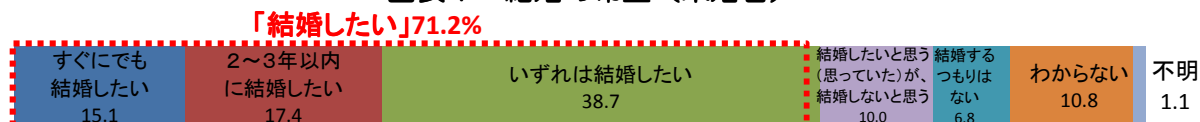
アンケート名	対象		回答数
(1) 結婚・出産・子育て	—	18歳～49歳の県内在住の男女	1,270件(18.6%)
(2) 進路	県内高校生	県内の公立高校に通う学生	12,535件(88.3%)
	大学生	県内の大学等に通う学生及び首都圏大学に通う県内出身者	1,367件(27.3%)
(3) 定住・二地域居住	移住者	過去5年で県外から県内に住民票を移動したもの	732件(19.4%)
	首都圏在住者	ふくしまファンクラブに登録する首都圏在住者	448件(29.9%)

(1) 結婚・出産・子育て

【結婚】

- 未婚者の7割が結婚の希望を持っているが、出会いがないこと、結婚の必要性を感じないことを理由に独身である。国立社会保障・人口問題研究所による出生動向基本調査（H22年（以下、社人研調査という）においても、「適当な相手にめぐり合わない」が多く挙げられているが、結婚できない理由として「結婚資金が足りない」が次に多く挙げられている。
 - 結婚しない理由が多く挙げられる一方で、男性は結婚資金が足りないこと、女性は仕事と家事・育児を両立させる自信がないことなど結婚できない理由も多く挙げられている。
- ⇒ 結婚の希望はあるものの、出会いがないことがネックになっていることと合わせ、特に男性は経済力への不安、女性は仕事と家事・育児の両立への不安などが独身でいる理由となっている。

図表1 結婚の希望（未婚者）



図表2 独身でいる理由（男女別）

男性(n=431)			女性(n=838)		
順位	独身でいる理由	%	順位	独身でいる理由	%
1	独身の自由さや気楽さを失いたくないから	47.0	1	異性と出会う機会そのものがないから	36.2
2	結婚する必要性をまだ感じないから	31.8	2	理想の相手にまだめぐり合えないから	33.7
3	結婚資金が足りないから	24.5	3	結婚する必要性をまだ感じないから	30.2
4	理想の相手にまだめぐり合えないから	21.9	4	独身の自由さや気楽さを失いたくないから	25.1
5	異性と出会う機会そのものがないから	21.2	5	仕事と家事を両立させる自信がないから	21.1
6	異性とうまく付き合えないから	19.9	6	相手に自分の生活を合わせないといけなから	20.6
7	今は、仕事に(または学業に)打ち込みたいから	17.2	7	今は、趣味や娯楽を楽しみたいから	19.6
8	今は、趣味や娯楽を楽しみたいから	16.6	8	仕事と育児を両立させる自信がないから	16.6
9	家計のやりくりが大変だから	9.9	9	今は、仕事に(または学業に)打ち込みたいから	15.1
10	その他	9.3	10	結婚資金が足りないから	14.6

【出産・子育て】

- 平成26年に県が実施したアンケートでは、理想的な子どもの数は2.76人に対し、実際予定する子どもの数は2.03人であった。同様の質問を行った社人研調査では、理想的な子どもの数は2.42人、実際予定する子どもの数は2.07人であり、理想的な子どもを持たない理由はどちらも「子育てや教育にお金がかかる」。
- 今回の調査でも、第一子、第二子の希望は6割以上あるが、第三子以降の希望は2割程度で、3人以上の子どもの希望が弱い。
- 県内の結婚の現状をみると未婚率、平均初婚年齢ともに全国より低いものの、年々上昇しており、未婚化・晩婚化が進行している。
- 子どもを持ちやすい環境については、「お金がかからないこと」や「地域の保育サービスが整うこと」が多く挙げられている。また、「働きながら子育てできること」は子どもの数が増えるほど多くあげられている。（お子さんの数 1人：66.5%、2人：59.1%、3人：67.6%、4人以上：72.4%）
- 特徴的な回答として、子どものいる家庭では「配偶者以外の家族の協力」、子どものいない家庭では「雇用の安定」や「相談できる人が地域にいること」が挙げられ、男性においては「雇用の安定」、女性においては、「配偶者や配偶者以外の家事・育児の協力」が挙げられている。

⇒ 理想的な子どもの人数は2.76人で全国より高い、一方実際予定する子どもの人数は全国と同程度である。全国と同様に第三子以降の希望は弱く、経済的な負担が大きいことや晩婚化の進行などの影響が考えられる。

⇒ 出産・子育ての支援策として、経済的な負担の軽減、子育て環境の整備が求められている。特に第一子目では、雇用の安定と家族・地域ぐるみで出産・子育てを支援する仕組みが求められ、第二子目以降では、働きながら子育てできることが求められる。

図表3 子どもの人数（理想・実際）

	理想的な子どもの人数	実際予定する子どもの人数
福島県	2.76人	2.03人
全国	2.42人	2.07人

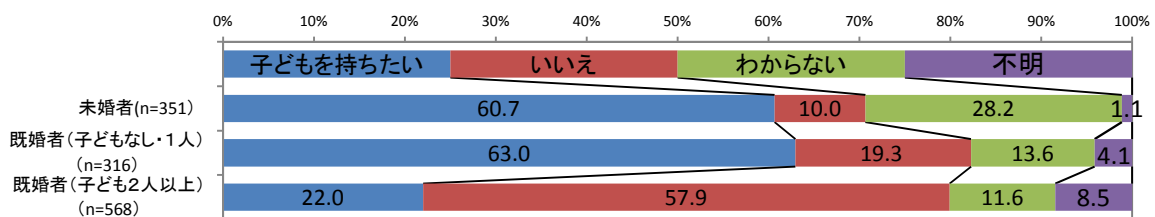
＜理想的な子どもをもたない理由＞

福島県	1 子育てや教育にお金がかかる（39.7%） 2 仕事への影響（21.5%） 3 心理的・肉体的負担が大（15.4%）
全国	1 子育てや教育にお金がかかりすぎる（60.4%） 2 高齢で生むのはいやだから（35.1%） 3 欲しいけれどもできないから（19.3%）

複数回答可

出典：平成26年9～10月に実施した福島県子育て支援課のアンケート調査結果
国立社会保障・人口問題研究所（H22）
「第14回出生動向基本調査 結婚と出産に関する全国調査 夫婦調査」

図表4 子どもの希望



図表5 子どもを持ちやすい環境（トップ10）（こどもの有無、男女別）

(%)

子どもを持ちやすい環境	全体 (n=1,270)	子どもの有無		男女別	
		いる (n=813)	いない (n=369)	男性 (n=431)	女性 (n=838)
教育にお金がかからないこと	62.6	66.8	55.3	64.7	61.5
働きながら子育てができる職場環境であること	61.0	63.2	59.1	51.3	66.0
地域の保育サービスが整うこと(保育所や一時預かりなど)	50.6	49.4	55.6	46.4	52.6
雇用が安定すること	40.9	37.9	46.6	45.5	38.4
配偶者の家事・育児への協力が得られること	39.8	40.7	39.8	24.4	47.7
健康上の問題がないこと	36.1	35.3	39.8	32.9	37.7
配偶者以外の家族に、育児に協力してくれる人がいること	31.7	34.1	29.0	23.2	36.2
自分または配偶者が高齢でないこと	23.2	24.7	21.1	21.6	24.1
出産・育児について相談できる人が地域にいること	18.7	14.3	28.7	17.2	19.6
家がある程度広いこと	15.9	16.4	17.1	17.2	15.3

(2) 進路（高校生・大学生）

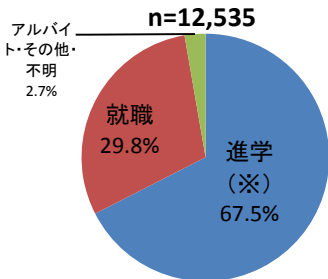
若者の進学・就職状況などについて調査を実施。県内定着や還流の動き、進路の動向等を調査・分析。

【高校生】

- 高校生の進路希望は、進学が約7割、就職が約3割である。男性は進学希望が約6割、就職希望が3割超であり、女性は進学希望が約7割、就職希望が約2割である。
- 就職希望者は約7割が県内を希望しているが、進学者は約7割が県外を希望している。
- 将来的なふくしまでの生活を希望するのは4割で、2割は希望しない、3割はわからないと回答している。男女別にみると、「女性」では、「希望しない」（23.0%）、「わからない」（34.0%）が合計で57.0%と、「男性（51.4%）」に比べて5.6ポイント高い。
過去の高校生アンケート(H20)では、高校生のうち、「ずっと住みたい」「一度県外へ出て将来は福島県に戻ってきたい」があわせて49.4%と約半数であった。福島県での暮らしの希望はやや弱まってきている。

⇒ 進学する人の7割が県外での進学を希望している。また、ずっとふくしまに住みたいという希望が弱く、若い世代にとって希望あるふくしまを実現していくことが求められる。

図表6 卒業後の進路



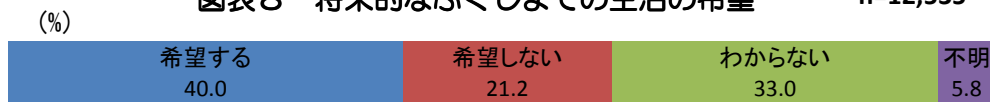
※ 進学のうち67.4%が四年制大学、24.7%が専修学校・各種学校。

図表7 進学・就職の希望地

就職希望地 (n=3,787)		進学希望地 (n=8,456)	
	%		%
1 福島県内を希望する	68.7	1 首都圏	38.4
2 わからない	15.1	2 東北地域	21.2
3 希望しない (※)	14.4	3 福島県内	26.0
4 不明	1.8	4 その他国内・国外	12.2
		5 不明	3.2

※希望しないのうち、首都圏が56.1%

図表8 将来的なふくしまでの生活の希望

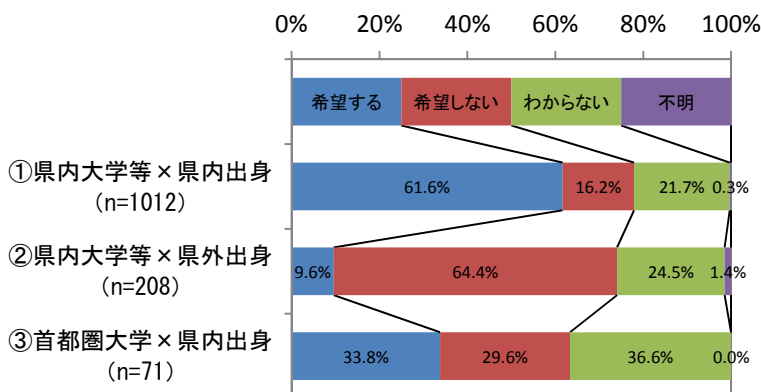


【大学生】

- 「①県内大学等に通う県内出身者」は、6割が県内での就職を希望。「②県内大学等に通う県外出身者」は、6割が希望しない。「③首都圏大学に通う県内出身者」は、希望する・希望しない・わからないに意見が分散している。
- ふくしまでの就職を希望する理由は地元でいたいから、希望しない理由は都会のほうが便利、志望する企業がない等である。

⇒ 県外に進学した県内出身者の戻る希望は弱い。還流を促していくには、就職先としての県内の魅力的な企業づくり、また生活利便性を向上させることが求められている。

図表9 ふくしまでの就職の希望



図表10 就職を希望する理由・しない理由

希望する理由	%
1 地元での生活に慣れているから	46.4
2 (自分の意思から)両親や祖父母の近くで生活したいから	46.2
3 実家から通って経済的に楽だから	40.3

希望しない理由	%
1 都会のほうが便利だから	39.7
2 地域にとらわれず働きたいから	33.8
3 志望する企業がないから	29.4

(3) 定住・二地域

定住・移住の施策に取り組むため、県内への移住に係る現状や希望について調査を実施。

【移住者】（既移住者）

- 移住理由は、10～40代のうち、県内出身者は就職（Uターン）、県外出身者は転勤・就職が主な理由である。50代以上は、県内・県外出身、どちらも定年退職・早期退職が主な理由である。
- 移住にあたって重視することは、現役世代は就労先、定年世代は住まいである。
- 就労先や賃金による県内での暮らしの不便さについて、女性の方が不便さを多く感じている。（男性27.9%・女性39.0%）

⇒ 現役世代は就職や転勤、定年世代は退職が移住の理由である。それぞれ重視するポイントは仕事と住まいである。

図表11 年代×出身ごとの移住した理由（トップ3）

	10-40代	50代以上
県内	1 その他 26.9	1 定年退職 47.4
	2 就職 24.7	早期退職
	3 子育て 19.4	2 その他 24.6
	その他…離婚、地元だから	3 親族の介護 14.0
		その他…原発被害による住所移動等
県外	1 会社内の異動 31.0	1 定年退職 44.8
	2 就職 27.4	早期退職
	3 その他 22.6	2 会社内の異動 19.0
	その他…地域ボランティア活動	3 その他 19.0
		その他…起業、就農等

図表12 移住で重視したこと（トップ3）

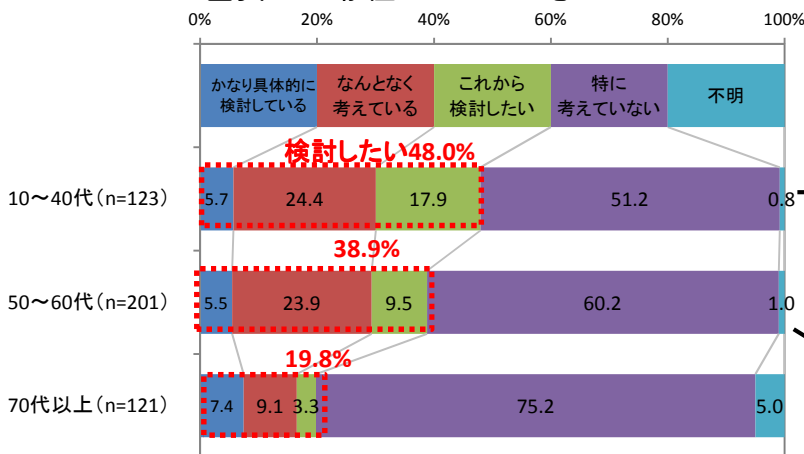
10～40代(n=426)		
順位	移住で重視したこと	%
1	就労先	40.6
2	居住先(住宅の状況)	35.0
3	特に重視するものはない	22.1
50代以上 (n=298)		
順位	移住で重視したこと	%
1	居住先(住宅の状況)	35.9
2	特に重視するものはない	24.2
3	人間関係	23.5

【首都圏在住者】（未移住者）

- 10～40代の若い世代では、半数が移住に興味を持っているが、仕事が見つからないことや、賃金がかかることを懸念している。50～60代の定年世代は、4割が移住に興味を持っており、医療環境や日常生活の利便性を求めている。
- ふくしまを移住先として検討できる人は4割である。

⇒ 首都圏に住む若い世代は移住に興味をもっているが、移住を促すには就労先・賃金が重要になる。

図表13 移住についての考え



図表14 移住を妨げる要因（トップ3）

10～40代(n=123)		
順位	移住を妨げる要因	%
1	働き口が見つからない	82.9
2	給与が下がる可能性	52.8
3	移住先の人間関係	37.4
50代以上 (n=322)		
順位	移住を妨げる要因	%
1	日常生活の利便性	39.4
2	医療・福祉サービスの少なさ	33.5
3	働き口が見つからない	33.2
3	公共交通の利便性	33.2
3	移住先の人間関係	33.2

図表15 ふくしまを移住先として検討できるか

n=448					
検討できる	検討できない	あまり検討しない	全く検討しない	どちらでもない	不明
21.0	22.8	17.9	20.5	14.1	3.8